



診療体制を強化し 生活改善で予防へ

今年11月、群馬大医学部附属病院循環器内科に石井秀樹教授が着任した。名古屋大医学部附属病院や、前任地の愛知県の藤田医科大学ばんだね病院では、急性心筋梗塞の治療を中心に、多岐にわたる心臓病の治療に当たってきた。石井教授は「早期発見、早期治療に努め、発症の多くの原因となる生活習慣の改善に向けた啓発活動にも力を入れたい」と意気込みを語る。

カテーテル治療を行う血管造影室に立つ石井教授。患者の命を救い、予後の改善につながるよう、治療に努めている。

群馬大医学部附属病院循環器内科
石井 秀樹 教授

いしい・ひでき 1970年7月新潟県生まれ。名古屋大医学部卒。専門は心臓カテーテルインターベンション(急性心筋梗塞などの治療)。趣味は大相撲観戦、鉄道。高校、大学時代はラグビーに汗を流した

当院は、狭心症や急性心筋梗塞といった虚血性心疾患をはじめ、心不全や不整脈などさまざまな心臓に関する循環器疾患の治療に当たっています。特定機能病院として、また、北関東の中核病院として、高度医療を提供しています。

治療だけでなく、検査、薬、栄養、リハビリといった多職種連携のチーム医療で診療しています。心筋に血液を送る冠動脈に動脈硬化が進んでいると、負担の少ないカテーテル(細い管)を冠動脈に直接入れて血管を広げるほか、新たな血管の流れを確保する外科的なバイパス手術を行うこともあるため、外科医との連携も欠かせません。定期的にカンファレンスを開き、最適な治療法を検討しています。

診療科を超えた連携

心不全患者の診療では、全国でもわずかな施設でしかできない、運動負荷をかけながら血圧や心拍数などを測る「運動負荷心臓カテーテル検査」を行っています。多くの医療機関は薬物を使って疑似的に数値を測りますが、より詳細な原因の解明につながっています。

心臓に負荷がかかる指定難病の肺高血圧症では、カテーテル治療や最新機器を導入し、県内医療の拠点となっています。

不整脈では「カテーテルアブレーション」という手術法で原因部分を焼き切ります。遺伝性の不整脈に対する研究を行い、難治性の治療にも取り組んでいます。

最近注目されているのが「腫瘍循環器学」です。がんになると血栓ができやすく、抗がん剤治療の副作用で、心臓に悪影響が出ることがあるため、診療科の枠を超えた連携体制を進めています。

今年から「息切れ外来」を始めました。息切れは加齢ではなく、心不全や慢性閉塞性肺疾患、心臓弁膜症などによる可能性もあります。原因となる病気が分からない不定愁訴の患者さんにも、積極的に診療を進めたいと考えています。

健康寿命を延ばす

日本人の死亡原因は、がんに次いで心臓病が多く、そのうち最も多い心不全では8万人、急性心筋梗塞では3万人が1年間で亡くなっています。75歳以上で亡くなる方は、心臓病と脳卒中を合わせると、がんを上回ります。また、要介護になる原因の約25%が脳卒中と心臓病で、最も高いです。なお、高齢化が全国よりも早く進んでいる本県の死亡原因は、心臓病や脳卒中の循環器系の疾患ががんを抜いて1位です。喫緊の対策と、県民の皆さんへの啓発が大変重要と考えています。

高齢化で罹患数が増える中、2019年12月に「脳卒中・循環器病対策基本法」が施行されました。健康寿命を延ばすために、予防の推進や迅速で適切な治療体制の整備が進められています。

群馬心不全地域連携協議会では「心不



循環器内科の医師で集まり患者の治療方針を検討するカンファレンス

全手帳」を発行しています。日々の体重や血圧、自覚症状や服薬、運動などを記録するほか、食事や運動など日常生活で気を付けるポイントがイラストで分かりやすくまとめてあり、普及を進めています。

発症を防ぐには、食事や運動の生活習慣が非常に重要です。カロリーを抑え、塩分を控えて野菜を摂取する食生活や、日ごろから体を動かし、歩く習慣を身に付けることでリスクは下がります。予防医療の観点から、生活習慣の改善に向けた提案にも力を入れたいと考えています。

迅速な治療の実現

本県は「医師少数県」といわれています。医師を増やすためには、若手医師の育成のほか、医師の定着、県外にいる本県出身の医師らが戻りたいと思えるような医療環境をつくる役割を、当院は担っていく必要があります。

県内でも高齢化や山間地域の過疎化が進んでいますが、循環器疾患を発症しても、すぐに受診できない医療の空白地域をつくってははいけません。急性心筋梗塞や心不全は、迅速な治療が求められます。搬送時に救急隊から患者の心電図を送る仕組みや、通院の負担がないオンライン診療を取り入れるなど、診療体制の強化を目指しています。

「人は血管とともに老いる」といわれますが、要介護にならずに健康でいるためには、心臓病の原因の根底にある食事や運動の生活習慣を見直すことです。息切れや胸の痛みなどを感じたら、躊躇なく専門医療機関を受診してください。県民の皆さんに安全安心の医療を提供し、予防に向けた取り組みを進めていきます。

理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大学医学部附属病院
前橋市昭和町3-39-15 TEL.027-220-7111(代表)
<https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>